

区分	概要（代表例）	改善策
薬剤	急性閉塞隅角緑内障の患者は、抗コリン薬禁忌である。しかし、抗コリン作用のあるアルプラゾラム錠が処方され、その後の薬剤局の監査でも気が付かず、調剤を行ってしまった。 次の受診の際、院外処方箋が発行されたことで、院外薬局から疑義照会があり、他の薬剤に変更した。	電子カルテの患者コメント記載欄の、病名禁忌確認を徹底することとした。
療養上の世話	医療用弾性ストッキングによる医療関連機器褥瘡（MDRPU）発生が増加した。	静脈血栓塞栓症リスク評価表に、注意を要する患者状態を明記した。 褥瘡対策チームが、医療関連機器褥瘡（MDRPU）の予防方法と緩衝剤の使用方法について、研修会を開催した。
転倒転落	普段から杖を使用している患者が、2 階外来で下肢処置終了後、エスカレーターを使用し 1 階に降りている際、下 2 段目くらいから転倒した。	明かりを落としていたエスカレーターの手すりライトを点灯し、足元を見やすい環境にした。 外来・病院敷地内の急な傷病者対応フローを作成し、緊急時の対応手順書を整備した。
治療・処置	全身麻酔を契機に、痛み等の症状が出現し、その後の検査で頸椎症が判明した。	頸椎症の発症リスク把握のため、麻酔問診票の項目に、手足のしびれやその原因、首の動きによるしびれの有無について追加した。
ドレーン・チューブ	パワーPICC（末梢挿入型中心静脈カテーテル）を使用した造影 CT 撮影時に、造影剤注入途中で接続している耐圧チューブが破損した。	造影剤の注入圧設定を耐圧性能まで減圧することとした。
ドレーン・チューブ	おむつ交換のため患者の体位変換を実施後、気管切開チューブが逸脱した。	気管内挿管・気管切開術患者の、体位変換時等の注意事項を明記した用紙を作成し、周知した。

区分	概要（代表例）	改善策
療養上の世話	在宅で人工肛門管理を訪問看護師が行うため、訪問看護師は病棟看護師の指導のもと、2 回目の人工肛門装具の貼り替えを行う予定であった。しかし、準備が整わない状態で、訪問看護師のみで貼り替えを始めたため、手技操作が十分でなく、人工肛門周囲の皮膚発赤が発生した。	必要物品の準備を整え、指導担当看護師の同席した状態で、人工肛門装具の交換を行うこととした。 人工肛門装具の交換の際は、仰臥位で行うこととした。